

## 10 セレクタ②

---

### タイプセレクタとユニバーサルセレクタ

- タイプセレクタ

要素名をそのまま使って適用先を示すセレクタのことを「タイプセレクタ」と言います。

- ユニバーサルセレクタ

要素名の代わりに「\*」記号を使用すると、すべての要素が適用先となります。この「\*」は「ユニバーサルセレクタ」と呼ばれており、このあとに他のセレクタが続く場合には省略することができます。

### IDセレクタとクラスセレクタ

- IDセレクタ

「#」記号に続けて「id属性の値」を記述すると、その「id属性の値」が指定されている要素が適用対象となります。この場合、まず先頭に要素名または「\*」を指定し、それに続けて「#」と「id属性の値」を記述します。要素名を指定した場合は「その種類の要素の中で、そのid属性の値が指定されている要素」が適用対象となり、「\*」を指定した場合は「要素の種類に関係なく、そのid属性の値が指定されている要素」が適用対象となります。IDセレクタを使用する際は、「\*」は省略可能です。

```
p#top { ... }
*#top { ... }
#top { ... }
```

- クラスセレクタ

「.」記号に続けて「class属性の値」を記述すると、その「class属性の値」が指定されている要素が適用対象となります。HTMLのclass属性の値は、半角スペースで区切って複数指定できますが、複数ある値の中にクラスセレクタで指定した値が含まれている要素であれば適用されます（つまり、値全体が完全に一致する必要はなく、クラスセレクタで指定した値が属性の値に含まれていれば適用されるということです）。IDセレクタと同様に、まずは先頭に要素名または「\*」を指定し、それに続けて「.」と「class属性の値」を記述して使用します。クラスセレクタを使用する際も「\*」は省略可能です。

```
p.note { ... }
*.note { ... }
.note { ... }
```